

国立国語研究所学術情報リポジトリ

文章理解過程における日本語学習者の固有名詞の意味理解：文脈的手がかりに着目して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): passage comprehension process, JSL and JFL learners, proper nouns, understanding meanings, contextual clues 作成者: 蒙, ☒ (韞), MENG, Yun メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001416

文章理解過程における日本語学習者の固有名詞の意味理解

——文脈の手がかりに着目して——

蒙 韞 (輻)

国立国語研究所 研究系 日本語教育研究領域 プロジェクト研究員

要旨

本研究は、人名、商品名、会社名、店名などの12の固有名詞に関して、中国国内の大学で日本語を専攻する中国人学部生30名、日本国内の大学で学ぶ中国人学部生と日本人学部生各10名を対象に調査を行った成果である。また、本研究では、読み手の文章理解過程を可視化するため、文章を読みながら口頭で母語に訳しつつ、問題になっている語について質問に答えてもらう方法を用いた。質的分析の結果、次のことが明らかになった。まず、中国人日本語学習者について、①固有名詞の習得には滞日経験が影響していることが示唆された。②滞日経験があると、経験の手がかりなどの「内容的手がかり」の使用が活発になる傾向が見られた。③滞日経験があると、語の意味を知らなくても正しく推測できる能力が若干高まる傾向が見られた。次に、日本語母語話者について、①6割が固有名詞としての「アクセス」を、5割が「馬車道」を知らず、かつ推測もできなかったが、10人全員が「アシスト」は知らなかったが推測はできた。②母語話者は固有名詞に関する知識は中国人日本語学習者より豊富であるが、その知識は特定の文脈で使われている限定的な意味の選別には負の働きをすることもあり、最終的に、意味推測に失敗した例も見られた。なお、中国人日本語学習者、日本語母語話者を問わず、固有名詞の解釈プロセスの特徴として、ガーデンパス文的な「再解釈」というパターンも観察された*。

キーワード：文章理解過程、日本語学習者、固有名詞、意味理解、文脈の手がかり

1. はじめに

文章理解の際に語の意味が分かることは重要であり、日本語教育においても、文章理解における語彙研究の蓄積は豊かである。その中で、どのような語彙に学習者がつまずきやすいかの研究はこれまで必ずしも多くなかったが、近年、以下のような研究によって、学習者がつまずきやすい語彙のタイプが明らかになりつつある。母語として及び外国語としての日本語テキストの読解においてThink-aloud法による3つのケース・スタディーを扱った森(2000)、中上級の中国人と韓国人日本語学習者を対象に、テキスト理解における未知語の意味推測及びその際に使用する知識源と、L2知識(語彙・文法)、テキスト内容理解、母語背景との関係を調べた山方(2008)、再話・筆記再生タスクの分析から上級中国人日本語学習者の読解の問題点を探った高橋(2012)、中国人日本語学習者の読解教育を考えた中西(2012)、学習者は学術論文をどこで読み誤るかに注目し、

* 本稿は国立国語研究所機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」(プロジェクトリーダー：石黒圭)の研究成果を報告したものである。また、本稿はNINJAL国際シンポジウム「第10回日本語実用言語学国際会議(ICPLJ10)」(2017年7月9日、於：国立国語研究所)での発表内容を基に作成したものである。発表当日に有益なコメントをくださった皆様、今回の調査と分析にご協力くださった劉洋氏(中国黒竜江大学専任講師)、劉金鳳氏(中国無錫職業技術学院専任講師)とチームメンバー(石黒圭教授、烏中啓行氏、布施悠子氏、志賀玲子氏、霍沁宇氏、胡方方氏、NGUYEN Thi Thanh Thuy氏)に感謝申し上げます。

上級日本語学習者の読み誤りを調査した藤井・花田・藤原・野田 (2012), 中国語系初級日本語学習者が日本語で書かれたホテル検索サイトの情報をどのように読み, その過程にどのような困難点があるのかを調査した桑原・山口(2014), 上級学習者が学術論文を読む時の方法と課題を扱った野田 (2014), 中国語を母語とする上級日本語学習者が学術論文を読む時の読解過程を調査し, そこでの名詞の意味の誤った理解に焦点を当て, 論文読解時に生じる誤読について考察した藤原 (2016) などである。しかし, そうしたタイプの語彙が何故つまづきやすいのか, また, つまづきを回避できている学習者はどのような方略を用いているのかなどは未だ明らかでない。

本研究はこうした先行研究を踏まえ, 文脈情報を用いた固有名詞の理解に焦点を当てる。固有名詞を理解する際に, 学習者や母語話者は多様な文脈の手がかりをどのように用いるのか。また, 学習者と母語話者の違い, 学習者の日本語能力の違い, 滞日経験の有無によって, 固有名詞の理解にどのような影響が及ぶのか。本研究ではこのような実態を観察・分析し, 文章理解過程に見られる学習者の固有名詞理解の困難点を明らかにし, その成果を読解教育に生かすことを目指す。

2. 調査の概要

2.1 調査項目

本調査で扱った調査項目は, 人名, 商品名, 会社名, 店名など, 下記 12 の固有名詞¹である。

表1 本調査で扱った固有名詞

番号	語	例文
1	小枝	弟は皿の横に落ちていた小枝を拾って食べた。
2	諭吉	今月は諭吉が次々と私のもとを旅立ってゆく。
3	愛, 真理	愛は真理と口論することがある。
4	大分	妻は昨日から大分に帰っている。
5	国体	高校時代の友人は国体に出たことがある。
6	アシスト	アシストが介護事業に乗り出した。
7	眼鏡市場	私はそのメガネを眼鏡市場で買った。
8	二郎	二郎に行ったその日の夜は, 満腹で動けなくなる。
9	アクセス	アクセスで会員情報を管理する。
10	毎日	総理大臣のスcoopが毎日に掲載された。
11	ライン	友達とはラインで連絡をとっている。
12	馬車道	家の近くの馬車道は, お昼どきはいつも混んでいる。

2.2 調査方法

調査では, 読み手の文章理解過程²を可視化するため, 文章を読みながら口頭で母語に訳しつつ,

¹ 本稿で言う「固有名詞」は、「固有名詞と普通名詞の両方の意味を持つ多義語」と「異なる固有な名を指し得る多義語」のいずれかの特徴を持っている。

² 一般に「文」は一文を指し, 「文章」は文の集合体を指す。その意味では, 本稿の「文章」は「文」である。ただし, 本稿では, 「文章」を長さの単位としてではなく, 理解という処理過程の対象となる文字列として捉えており, また, 一文で行われる理解が文連続の理解のベースになると考えて, 敢えて「文章」という語を用いている。

問題になっている語について質問に答えてもらう方法を用いた。具体的には、中国人日本語学習者の場合、調査員が調査対象者にターゲット語を含む日本語の例文をランダムに提示し、調査対象者が、その日本語の例文を口頭で中国語に翻訳し、ターゲット語の理解に関して、調査員が中国語で質問し、調査対象者が中国語で回答した。一方、日本語母語話者の場合、調査員が調査対象者にターゲット語を含む日本語の例文をランダムに提示し、そのターゲット語を他の日本語に言い換えてもらった。

調査員は調査対象者に、パワーポイントのスライドを用いて、ターゲット語を含む日本語の例文（全 80 枚）をランダムに提示し、回答を得た。スライドには、和語動詞や外来語の多義語などをターゲットとする例文も含まれており、80 枚の中で固有名詞の多義語に関するスライド（例文）は 2.1 節で挙げた 12 枚のみであり、調査対象者は固有名詞のみを意識して回答しているわけではない。

本稿では、固有名詞の多義語に関する 12 の項目（スライド）についての回答を分析対象とする。

2.3 調査対象者

調査対象者は、中国国内の大学で日本語を専攻する中国人学部生（CCH）30 名、日本国内の大学で学ぶ中国人学部生（CCT）と日本人学部生（JJT）各 10 名である。調査対象者の属性は下記表 2 の通りである。

表 2 本研究の調査対象者

グループ		学年	専攻	日本語能力 (J-CAT ³ 平均 得点)	滞日経験	人数 (男女内訳)
中国人日本語学習者 (学部生)	一年次修了 (中国国内) (CCH1)	1 年	日本語	中級 (172.8)	無	10 (男：5 女：5)
	二年次修了 (中国国内) (CCH2)	2 年	日本語	中級後半 (211.8)	無	10 (男：2 女：8)
	三年次修了 (中国国内) (CCH3)	3 年	日本語	中級後半 (220.1)	無	10 (男：4 女：6)
	学部留学生 (日本国内) (CCT0)	1～3 年	経済学, 商学, 法学, 文学等	上級前半 (277.7)	2 年 6 ヶ月～ 4 年 8 ヶ月	10 (男：2 女：8)
日本語母語話者 (学部生) (JJT0)		1～3 年	商学, 言語文化学, 人文社会学, 薬学等	—	—	10 (男：5 女：5)
合計						50 (男：18 女：32)

³ J-CAT 日本語テストのレベル判定は、100 点以内が初級、100-150 点が中級前半、150-200 点が中級、200-250 点が中級後半、250-300 点が上級前半、300-350 点が上級、350 点以上が日本語母語話者相当になっている。本研究では、350 点を満点と見なす。

3. 分析方法

調査で得られた回答を対象として、日本語学や日本語教育学を専門とする評定者3名(中国語母語話者2名と日本語母語話者1名)が以下の3点についてコーディングを行った。

- i. 対象者が回答したターゲット語の語義は正答か。
- ii. 対象者が当該例文のターゲット語の語義を知っていたか。
- iii. 対象者がターゲット語の語義を、どのような文脈の手がかりを用いて推測したか。

調査で得られた各回答に関して、iについては、正答は1、判断に迷う場合は0.5、誤答は0、また、iiについては、知っていた場合は1、判断に迷う場合は0.5、知らなかった場合は0として、それぞれ得点を与えて集計した。

iiiの語義推測の文脈の手がかりに関する分類は石黒・烏(2017)をもとにし、その用語や定義を一部修正するとともに、「環境の手がかり」という分類(1類2種)を新しく設け、計4類13種とした。1名の回答中で、13種の手がかりのうちのいずれかの手がかりが用いられた場合、手がかりの種類が同じかどうかにかかわらず、用いられるたびに1点を与えた。使用された13種の手がかりをそれぞれ種別と類別に集計した。

また、固有名詞の処理過程を「語彙の手がかり」「構成的手がかり」「内容的手がかり」「環境の手がかり」という以下の4つの観点から分析した。なお、以下の例文は全て今回の調査対象者の発話の例である。

1) **語彙の手がかり**：当該の語そのものから得られる手がかりを用いる。

1-1) 派生的手がかり：その語の基本義を知っていて、その基本義からイメージを広げる。

(1) アクセス, 进入。还有, 还有什么意思? 还有软件那个编程什么。

「「アクセス」, 進入する。また, 他の意味は……ソフトのあのプログラミングとかという意味もありますね。」 (CCH3-14⁴「アクセス」)

1-2) 語構成的手がかり：その語の語構成を考えて、語構成から分析的に語の意味を考える。

(2) 好像就是国家体育的学校, 或者是国家体育局的简称吧。

「おそらく「国家体育的学校」, あるいは「国家体育局」の略称ではないかな。」

(CCT0-21「国体」)

1-3) 表意の手がかり：その語の表記を見て、表記からイメージを広げる。漢字の字面を用いることが多い。

⁴ 調査対象者番号は、次の6桁のものからなる。まず、1～3桁のアルファベットは、国名、母語、調査が実施された都市名のローマ字の頭文字である(Cは中国/中国語、Jは日本/日本語、Hは哈爾濱(ハルビン)、Tは東京)。4桁目の数字は学年(1～3)を表している。ただし、CCTとJITに関しては、1～3年生が混ざっていたため、その学年を「1～3」で区別せず、「0」で示す。また、5～6桁目の数字は調査対象者の個人番号となり、「01」～「36」の中から数字をランダムに付けた。

- (3) 这个月好消息接踵而至，我去旅行。諭吉，根据它的字面意思就应该，这个吉是吉祥的意思，然后，嗯，它在这句话里应该翻译成一条消息之类的名词，所以把它翻译成好消息。
「今月は良い知らせが次から次へと舞い込んで、私は旅行します。「諭吉」，字面の意味からはたぶん、この吉は縁起がいいという意味で、で、あのう、それがこの文では「知らせ」のような名詞に訳されるはず、だから良い知らせと訳しました。」 (CCH1-34「諭吉」)

1-4) 表音の手がかり：その語の音声を考えて、音声からイメージを広げる。片仮名のものが多い。

- (4) assist, 英語啊，天啊。assist, assist。呃，呃，护理，护理行业引入了……。呃，不知道。
「assist, 英語か。どうしよう。assist, assist。ええと、ええと、看護，看護の業界は何かを取り入れました……。ええと、分かりません。」 (CCH2-19「アシスト」)

2) **構造的手がかり**：当該の語が置かれている前後の要素を手がかりに考える。

2-1) 連語の手がかり：前後の実質語の意味連続を手がかりに、連語の組み合わせから語の意味を考える。

- (5) 「皿の横」っていうのと、あと「食べた」っていうので、なんか食べ物なのかな、っていう感じでした。 (JJT0-16「小枝」)

2-2) 統語の手がかり：文法形式の選択を手がかりに、統語的な情報から語の意味を考える。

- (6) 后面说どこにけいさいされた。所以那个前面应该是けいさいされた的那个动作，附着点。まいにちしんぶん。
「後ろは「どこに掲載された」と言っているから、その前は恐らく「掲載された」という動作の、附着点のはずです。だから、「毎日新聞」です。」 (CCH3-21「毎日」)

2-3) 共起の手がかり：主に副詞的・状況語的な要素の意味を手がかりに、共起する要素との関連から語の意味を考える。

- (7) 就看到这个つぎつぎと、然后就觉得是，会是，嗯，几个，六七个朋友。
「つまりこの「次々と」を見たから、それでそれが、えーと、数人，6, 7人の友達だと思いました。」 (CCH2-08「諭吉」)

2-4) 関係の手がかり：先行・後続する事態の意味を手がかりに、前後の文脈との関連から語の意味を考える。今回の固有名詞の分析では該当する項目がなかった。

3) **内容的手がかり**：当該の語を含む文の意味を手がかりに考える。

3-1) 直感の手がかり：特殊な状況がないことを前提に、直感的に典型的な状況（デフォルト）の中で語の意味を考える。

- (8) 「口論する」ってあったので、比喩かなとも思ったんですけど、人って考えた方が、自然だなと思って。 (JJT0-14「愛，真理」)

3-2) 常識の手がかり：文の内容を自分の知識や常識に照らして、その知識や常識の中で語の意味を考える。

- (9) ライン是在日本的一个很流行的交友的软件。我没有用过，在中国不能用。
 「ライン」は日本でとても流行っている SNS のソフトですね。使ったことはないですね。
 中国では使えませんから。」 (CCH2-06 「ライン」)

3-3) 経験の手がかり：文の内容を具体的な場面や状況に置いて、その場面や状況の中で語の意味を考える。

- (10) 我有眼镜是在那里买的，所以知道眼镜市场这家店。
 「眼鏡市場」で眼鏡を買ったことがありますから、その店を知っています。」 (CCT0-20 「眼鏡市場」)

4) 環境の手がかり：調査時の雰囲気や周りの環境、インタビュアーなどの外部から得られる手がかりを用いる。

4-1) 対話の手がかり：インタビュアーに質問されて自分の理解を疑って語の意味を考え直す。

- (11) I: 嗯，在这里面的话，然后你觉得，就是这个爱和真理和我们中文当中的“爱”和“真理”是一样的吗？
 「えー，ではこの「愛」と「真理」は中国語の「愛」と「真理」と同じだと思いますか。」
 C: あっ，ごめん。まちがった。あいちゃんと，あのう，あいちゃんとまりちゃんとね。
 你这么一说我才想起来，一开始我就感觉这篇文章写得很哲学。
 「あっ，ごめん。間違った。愛ちゃんと，あのう，愛ちゃんと真理ちゃんとね。そう言われて気が付いたんですよ。最初はこの文はとても哲学的だと思っていたんです。」
 (I はインタビュアー，C は中国人学生を表す) (CCT0-10 「愛，真理」)

4-2) 方略の手がかり：出題者の意図や出題のパターンなどを意識して語の意味を考え直す。

- (12) 那如果是马和车就不会出了。那肯定就是人行道。过去骑马行车的地方。有一个陷阱在里面。嗯。哈哈。
 「もし馬と車なら，こんな問題は出ないはずですよ。だから，絶対，歩道です。昔，馬が走ったり，車が走ったりしたところだと思います。ここは落とし穴だと思っていました。はい。(笑)」 (CCT0-18 「馬車道」)

4. 結果と考察

4.1 中国人日本語学習者について

分析の結果，中国人日本語学習者について，以下のことが明らかになった。

まず，表3に示したように，固有名詞の習得には滞日経験が影響していることが示唆された。

表3 滞日経験と固有名詞の習得との関係

グループ	滞日経験 (平均滞在年数)	正答: 対象者がターゲット語の語義を正答した場合の平均得点 / 満点 (%)
一年生	0	1.3/12 (11)
二年生	0	1.8/12 (15)
三年生	0	2.7/12 (22.5)
留学生	3.3	6/12 (50)
母語話者	—	10/12 (83)

【注】「正答」の集計は、判断に迷う例を除外し、正答のみを集計した。表中の(%)は、満点に占める平均の割合を示す(以下の表も同じ)。

次に、表4から分かるように、滞日経験があると、経験の手がかりなどの「内容の手がかり」の使用が活発になる傾向が見られた。

表4 滞日経験と4類の手がかりとの関係

グループ	滞日経験 (平均滞在年数)	語彙の手がかりの平均得点 / 4類の手がかりの合計得点 (%)	構造的手がかりの平均得点 / 4類の手がかりの合計得点 (%)	内容の手がかりの平均得点 / 4類の手がかりの合計得点 (%)	環境の手がかりの平均得点 / 4類の手がかりの合計得点 (%)
一年生	0	4.1/13.2 (31.1)	3.7/13.2 (28)	3.5/13.2 (26.5)	1.9/13.2 (14.4)
二年生	0	5/13.9 (36)	2.9/13.9 (20.9)	3/13.9 (21.6)	3/13.9 (21.6)
三年生	0	3.1/12.6 (24.6)	2.8/12.6 (22.2)	2.7/12.6 (21.4)	4/12.6 (31.7)
留学生	3.3	4.9/17.7 (27.7)	3.8/17.7 (21.5)	7.9/17.7 (44.6)	1.1/17.7 (6.2)
母語話者	—	1.6/15.3 (10.5)	5.4/15.3 (35.3)	5.6/15.3 (36.6)	2.7/15.3 (17.6)

また、質的に見ても、滞日経験があると、文の内容を具体的な場面や状況に照らして、その場面や状況の中で語の意味を考えられるようになる。例えば、(13)、(14)参照。以下の対話では、Iはインタビュアー、Cは中国人学生を表す。また、□で囲んだ部分は、調査対象者が文の内容について自分の経験から語の意味を考えた箇所である。

(13) C: 哈。这个月，我的钱，哈哈，就一张一张的，飞走了。

「(笑) 今月，私のお金は (笑) 一枚一枚と飛ぶようになりました。」

I: 嗯。那这个画线部分的意思是？

「はい，この下線部の意味は何ですか。」

C: (日本語で回答) いちまんえん。

I: 嗯。这个你知道？

「はい，これは分かるんですね。」

C: うちのこうちょうせんせいでした。哈哈。

「うちの学長先生でした⁵。(笑)」

I: 哈哈。然后你们都，知道他是校長先生了，然后你们都知道那个是一万块钱了。

「(笑) だから、みんな彼は学長先生と分かっていて、それは一万円だと分かっていますね。」

C: 是，是。

「はいはい。」

I: 你们自己本身都这么说吗？

「皆さんそう言うんですか。」

C: 对。我会说こうちょうせんせい。

「はい、私は学長先生と言います。」

I: 啊。你们会把那个，一万块钱叫こうちょうせんせい啊？

「あ、一万円を学長先生と呼ぶんですか。」

C: 呃，不是。我们会，我们之前玩过什么（不清楚）之类的，游戏里面就有，拿，那个福泽谕吉作梗来玩。就是……

「いいえ、違います。前ゲームとか（名前のはっきり覚えていないが）で遊んだ時に諭吉をネタにして遊んでいました。つまり……」

I: 哦。

「はい。」

C: 对。他们会说以福泽谕吉来拍一个照之类的，然后我们就会拿一万块，然后站在学校里面拍照。

「はい、彼らは福沢諭吉で写真撮ろうと言って、みんな一万円札を出して、キャンパスの中で写真を撮ったりすることがあります。」 (CCT0-13「諭吉」)

(14) C: 去过二郎拉面的那个日子里因为太饱了，就不能动了。

「ラーメン二郎に行ったその日はあまりにもお腹いっぱいだったので、動けなくなりました。」

I: 哦（笑）好，这个二郎是？

「え（笑）分かりました。この二郎というのは？」

C: 因为总店在学校对面。（笑）

「その本店が学校の向かい側にあるので。(笑)」

I: 嗯，那是什么样的店呢？

「はい、どんな店なんですか。」

C: 就是，拉面特别多，就是这样，这是一个碗。

「麺がとても多くて、ねえ、こんな丼が一つ。」

⁵ 一万円札に描かれている福沢諭吉は、私立大学の慶応義塾大学の創立者として有名である。

- I: 嗯。
「はい。」
- C: 它拉面是这个样子的。(用手比划)
「ラーメンはねえ、こんな感じなの(手振りを交えて)」
- I: 哦(笑)
「なるほど(笑)」
- C: 然后这个样子还是なみもの's 感觉。
「それで、こんな量なのに、ただの「並」サイズですよ。」
- I: 是吗?(笑)
「そうなんですか?(笑)」
- C: 对, 就, 可能, 以我的食量来说。我可以吃掉这一碗的四分之一。(笑)
「ええ、たぶん、私の食べる量からすればね。」
「その丼の四分の一しか食べられないんです。(笑)」
- I: 哦, 好多啊, 是不是每次去吃完都有这样的感觉。
「へえ、かなりの量ですね。毎回行って食べ終わった時にいつもこんな感じですか。」
- C: 我只去过一次。(笑) 再也不敢去啦。
「私は一回しか行ったことがないんです。(笑) もう二度と行く勇気がないんです。」

(CCT0-20「二郎」)

そして、表5のデータから、滞日経験があると、語の意味を知らなくても正しく推測できる推測能力が若干高まる傾向が見られた。

推測能力は、語の意味を知らなかった場合における正答の割合(百分率)とした。その集計は、まずグループごとに、12項目のうち語の意味を知らなかった場合がいくつあったか、また、そのうちいくつが正答なのか、その合計をそれぞれ算出し、そのグループの割合を計算した。例えば、一年生10名の回答(10名×12項目=120項目)のうち、語の意味を知らなかった場合が112項目あり、そのうち、正答は5項目であった。このとき、そのグループの推測能力は、4.5% (=5 ÷ 112 × 100) となる。

表5 滞日経験と推測能力との関係

グループ	滞日経験(平均滞在年数)	推測能力 語の意味を知らなくても正しく推測できた場合の数 / 語の意味を知らなかった場合の数 (%)
一年生	0	5/112 (4.5)
二年生	0	4/105 (3.8)
三年生	0	6/96 (6.3)
留学生	3.3	10/63 (15.9)
母語話者	—	12/29 (41.4)

また、固有名詞ごとに、各グループで、語の意味を知らなくても正しく推測できた場合をまとめると表6のようになる。

表6 語の意味を知らなくても正しく推測できた場合の人数一覧 (各グループ10名)

グループ 語	一年生	二年生	三年生	留学生	母語話者	合計
小枝	0	0	0	1 (CCT0-10)	0	1
論吉	1 (CCH1-27)	0	0	0	0	1
愛, 真理	0	0	2 (CCH3-21, 24)	1 (CCT0-10)	0	3
大分	0	0	0	1 (CCT0-11)	0	1
国体	0	3 (CCH2-06, 30, 33)	1 (CCH3-21)	3 (CCT0-05, 10, 18)	0	7
アシスト	1 (CCH1-29)	0	1 (CCH3-21)	2 (CCT0-10, 21)	10 (全員)	14
眼鏡市場	1 (CCH1-34)	0	0	0	1 (JJT0-06)	2
二郎	1 (CCH1-31)	1 (CCH2-29)	2 (CCH3-15, 24)	1 (CCT0-04)	1 (JJT0-15)	6
アクセス	0	0	0	1 (CCT0-10)	0	1
毎日	1 (CCH1-20)	0	0	0	0	1
ライン	0	0	0	0	0	0
馬車道	0	0	0	0	0	0

【注】()内は調査対象者番号

表6からは以下のことが判明した。

- 1) 今回扱った12の固有名詞の中で、語の意味を知らなくても正しく推測できた人数が最も多かったのは「アシスト」、二番は「国体」、三番は「二郎」である。そのうち、「アシスト」に関しては、学習者と母語話者の差が大きく出ていた。つまり、学習者は40名のうち、4名しか推測できなかったが、母語話者は全員推測できていた。
- 2) 学習者の中では、推測能力が最も高かったのは留学生のCCT0-10であり、12の固有名詞の中、「小枝」「愛, 真理」「国体」「アシスト」「アクセス」という5つの語義を推測することができていた。また、推測能力が二番目に高かったのは三年生のCCH3-21であり、12の固有名詞の中、「愛, 真理」「国体」「アシスト」という3つの語義を推測することができていた。

上述した1)の「アシスト」に関しては、なぜ学習者と母語話者の差が大きく出ていたか、その原因をそれぞれの推測から詳しく考察した結果、次のことが明らかになった。まず、母語話者は「(介護) 事業」, 「乗り出した」のそれぞれの意味、あるいは「事業に乗り出した」という実質語の意味連続を手がかりに、連語の組み合わせから、「新しい事業に乗り出す」のは個人だと難しいと思われるため、「アシスト」が会社名だと推測していた。それに対して、学習者は、母語話者が手がかりとして用いた「(介護) 事業」, 「乗り出した」のそれぞれの意味、あるいは「事

業に乗り出した」という実質語の意味連続の持つ新規事業展開のニュアンスが正確に理解できなかったため、40名のうち、4名しか推測できていなかった。

また、2)の学習者の中で推測能力が最も高い留学生 CCT0-10 について、推測に成功した「小枝」、「愛、真理」、「国体」、「アシスト」、「アクセス」という5例から詳しく見ていく。

(15) C: 掉着的这个。こえだ应该是一种，一种零食吧。一种おかし，可能就是。猜的，然后就捡起吃掉了。

「落ちていたこれ，小枝は一種，一種のスナックじゃないですか。一種のお菓子，たぶんそうかな。推測ではね。それで拾って食べた。」

I: 哦，那你觉得它是，就是这个词本身你是不知道的，是吧？

「あー，なるほど，では，これ，この言葉そのものを知らなかったんですね。」

C: 本身我是不知道的。

「元々どんな意味かが分かりません。」

I: 你觉得它是，为什么它是一个零食呢？

「では，どうしてそれがスナックやお菓子だと思いましたか。」

C: 我感觉我恍惚中，感觉在什么地方看到过这个包装的一个东西。但是我，只是一个很模糊很模糊的印象，就……

「なんか，うろ覚えではどこかでこのような包装の物を見たことがあるような気がします。でも，本当にうっすらとしか覚えてなくて……」

I: 就是你也没有吃过。

「つまり，食べたことがないんですね。」

C: 嗯。

「はい。」

(CCT0-10「小枝」)

例(15)に示したように、留学生 CCT0-10 は「どこかでこのような包装の物を見たことがある」といううろ覚え，つまり「経験的な手がかり」を用いて「小枝」が「一種のスナックやお菓子」とであると推測し，成功した。

(16) C: 爱跟真理这两个东西反正搞不好就是有吵架的时候。也不是吵架，反正就是有意见不合的时候。

「愛と真理という二つのものが下手をすれば喧嘩をすることがあるんだと。喧嘩でもないのかな，とにかく意見が合わない時があるという意味です。」

I: 嗯，在这里面的话，然后你觉得，就是这个爱和真理和我们中文当中的“爱”和“真理”是一样的吗？

「えー，ではここの「愛」と「真理」は中国語の「愛」と「真理」と同じだと思いますか。」

C: あっ，ごめん。まちがった。あいちゃんと，あのう，あいちゃんとまりちゃんとね。你这么一说我才想起来，一开始我就感觉这篇文章写得很哲学。

「あっ、ごめん。間違った。愛ちゃんと、あのう、愛ちゃんと真理ちゃんとね。そう言われて気が付いたんですよ。最初はこの文はとても哲学的だと思っていました。」

I: 哦！很哲学？

「へえ、哲学的ですか。」

C: 它有个很深刻的，后来一想，嗯？啊，あいちゃんなんですね。どっちもあるよね。

「すごく深い意味があると思ったのですが、後で考えてみたら、えーと、あー、愛ちゃんなんですね。どっちもあるよね。」

I: 嗯，那你是觉得，通过什么你会觉得它是人名了呢？人名更合适呢？

「ええ，では，何を根拠に人名だと判断しましたか。人名のほうがもっと相応しいですか。」

C: 反正经常它们就起那个きらきらめい然后起这个，后来看习惯了就……

「どうせ名前によくキラキラ名，そしてこの名前をつけるでしょう。もう見慣れてきているから……」

I: 哦，你觉得日本人里面会有这样的名字什么的，是吗？

「ああ，日本人の名前にこんな名前が存在すると思ったんですか。」

C: 对。

「はい。」

I: 嗯，好的。

「はい，分かりました。」

(CCT0-10「愛，真理」)

例(16)から分かるように、留学生 CCT0-10 は最初、表意の手がかりを使い、漢字の字面から「愛と真理」の意味を、抽象的な意味の「love & truth」と解釈した。しかし、インタビュアーの「この「愛」と「真理」は中国語の「愛」と「真理」と同じだと思いますか」という質問をきっかけに、自分の理解を疑って語の意味を考え直すようになった。また、日本人の名前に関する自分の知識や常識に照らし、その知識や常識の中で語の意味を再解釈し、最終的に正解に辿り着けた。

(17) C: えー，こく，こくたい。こくたい，そうですね。こうこうじだいのともだちはこくたいにでたことがある。こくたい，嗯。こっかだいかいとか？わからない。あのう。就是高中，高中的时候，这个朋友他有参加过这个，反正就是国家，国家级别的体育大会。「えー，こく，国体。国体，そうですね。高校時代の友達は国体に出たことがある。国体，うん，国家大会とか？わからない。あのう。高校，高校の時，この友達はこれ，いずれにせよ，国家，国レベルの体育大会に参加した。」

I: 嗯，那你这个词是不知道的是吧？你刚刚说的就是猜出来的？

「えーと，この言葉を知らなかったのですね。さっき言っていたのは推測ですか。」

C: 嗯，这个词本身我是不知道，反正就拼嘛，こっか，たいいくとか，たい，まあ，たいいくかな？

「はい。言葉自体は分かりませんが，どうせ組み合わせればいいでしょう。国家，体

育とか、たい、まあ、体育かな。」

I: 嗯，就是你也是根据这个汉字，然后你大概猜它可能是什么缩略？

「えーと、それでこの漢字をもとに、おそらく何かの略称だと推測しましたか。」

C: (日本語で回答) はい。

I: 嗯，然后你觉得国的话可能是国家，体的话可能是体育。是吧？

「うん、国というのは国家で、体というのは体育でしょう。そうですか。」

C: (日本語で回答) はい。

I: 嗯，好。

「はい、分かりました。」

(CCT0-10「国体」)

例 (17) では、留学生 CCT0-10 は「国体」という語の語構成から分析的に語の意味を考え、「国レベルの体育大会」と正しく解釈した。

(18) C: アシストが、アシストというかいしゃ？叫做アシスト的一个公司或是一个什么东西，一个企业，它正在准备开拓这个什么看，养护……

「アシストが、アシストという会社？ アシストという会社あるいは何か、企業だとか、が介護を開拓しようとしている……」

I: 看护，护理。

「看護，介護。」

C: 看护的这个这个事业。

「介護というという事業。」

I: 嗯，划线这个词的意思你知道吗？

「うん、この下線部の意味が分かりますか。」

C: 知道。

「はい、分かります。」

I: 你知道，你刚才说它是……

「分かるんですね。先、それを……」

C: 啊，不，我不知道它是什么东西。但是它，字面上意思是知道的嘛，字面上就是帮助嘛，但是你看，一句话看完感觉不像是这个意思，就顶多就是公司的名字咯，就这样子。

「あ、違います。どういうものかはよく分かりません。でも字面の意味が分かります。字面から助けるという意味になるでしょう。でも、ほら、この文を読み終わったら、そんな意味ではないと感じました。せいぜい会社の名前ぐらいでしょう。そんな感じがします。」

I: 哦，好的。

「ああ、分かりました。」

(CCT0-10「アシスト」)

例 (18) から分かるように、留学生 CCT0-10 は直感の手がかりにより、「アシスト」の意味

を正しく推測することができた。

(19) C: かいいんじょうほうがアクセスでかんりする。えーとね、アクセス、アクセス？たぶんね、かいいんじょうほうをアクセスというアプリか。その。这个就, 会员的这个信息, 个人资料用这个, 用一个叫作ア, 叫作アクセスの东西, 在, 我们在管理。

「会員情報がアクセスで管理する。えーとね、アクセス、アクセス？ たぶんね、会員情報をアクセスというアプリか。その。これは、会員のこの情報を、個人情報、ア、アクセスというもので、私たちは管理している。」

I: 哦—哦, 那划线这个词的意思你知道吗?

「あー, なるほど, では下線部の意味が分かりますか。」

C: 猜的。

「いや, 当てました。」

I: 你是怎么猜出来它是一个, アプリ或者是一个东西呢?

「どうやってこれはアプリ, あるいは何かだと推測しましたか。」

C: (日本語で回答) 会員情報を何かで管理する。何かって言うと, ツールでしょう。って, アクセスって言うと, なんか, カタカナ名で, 格好つけて, たぶん, ナンチャラ社のソフトとか何かで, というなんですけど。そうか。

I: 你觉得……はい。

「そう思ったんですね……はい。」

(CCT0-10「アクセス」)

例(19)では、留学生 CCT0-10 は「会員情報を何かで管理する」という連語の手がかりと、「アクセス」というカタカナ名に関する常識から商品名と推測し、連語の手がかりと常識の手がかりの組み合わせを巧みに用いて「アクセス」の意味を正しく解釈することができた。

例(15)～(19)をまとめてみると、留学生 CCT0-10 は語そのもの、前後の要素、文全体の意味、調査時の雰囲気や周りの環境、インタビュアーなどの外部から得られる手がかりをバランスよく用いつつ、とくに日本の滞在経験を生かした経験の手がかりと常識の手がかりを活用して、12の固有名詞のうち、「小枝」「愛, 真理」「国体」「アシスト」「アクセス」という5つの語義を正しく推測することができた。滞日経験のない中国国内の学習者にとって、内容的手がかりを使うのは難しい面があるが、中国国内にいるうちから、商品名、社名、地名、人名などの固有名詞に積極的に触れることには一定の学習意義があると思われる。

4.2 日本語母語話者について

日本語母語話者に関しては、以下に示す表7のように、10名中6名が「アクセス」を、また5名が「馬車道」を、それぞれ知らずかつ推測もできなかったが、10名とも「アシスト」という語は知らないにもかかわらず正しく推測できた。

表7 母語話者の推測について

母語話者	アクセス		馬車道		アシスト	
	知識	正答	知識	正答	知識	正答
JJT0-05	×	×	×	×	×	○
JJT0-06	△	×	×	×	×	○
JJT0-07	○	○	△	△	×	○
JJT0-09	×	×	○	○	×	○
JJT0-12	△	×	×	×	×	○
JJT0-13	△	×	×	×	×	○
JJT0-14	×	×	○	○	×	○
JJT0-15	×	×	○	○	×	○
JJT0-16	×	×	×	×	×	○
JJT0-19	×	×	○	○	×	○

【注】「知識」：対象者が該当例文のターゲット語の語義を知っていたか

「正答」：対象者が回答したターゲット語の語義が正答か

×：知らなかった場合または誤答 △：判断に迷う場合 ○：知っていた場合または正答

また、日本語母語話者は、表8に示したように、固有名詞に関する知識は中国人日本語学習者より豊富であるが、その知識は特定の文脈で使われている限定的な意味の選別には負の働きをすることもあり、結局、以下の(20)のような意味推測に失敗した例も見られた。以下の対話では、Iはインタビュアー、Jは日本人学生を表す。

表8 固有名詞に関する「知識」と「正答」の判定一覧

グループ	「知識」：対象者が該当例文のターゲット語の語義を知っていたか				「正答」：対象者が回答したターゲット語の語義が正答か		
	知っていた場合 平均得点/ 満点 (%)	判断に迷う場合 平均得点/ 満点 (%)	知らなかった場合 平均得点/ 満点 (%)	判定不能 平均得点/ 満点 (%)	正答 平均得点/ 満点 (%)	判断に迷う場合 平均得点/ 満点 (%)	誤答 平均得点/ 満点 (%)
一年生	0.8/12 (6.7)	0/12 (0)	11.2/12 (93.3)	0/12 (0)	1.3/12 (10.8)	1.7/12 (14.2)	9/12 (75)
二年生	1.5/12 (12.5)	0/12 (0)	10.5/12 (87.5)	0/12 (0)	1.8/12 (15)	1.4/12 (11.7)	8.8/12 (73.3)
三年生	2/12 (16.7)	0/12 (0)	9.6/12 (80)	0.4/12 (3.3)	2.7/12 (22.5)	1.3/12 (10.8)	8/12 (66.7)
留学生	4.9/12 (40.8)	0.7/12 (5.8)	6.3/12 (52.5)	0.1/12 (0.8)	6/12 (50)	1.4/12 (11.7)	4.6/12 (38.3)
母語話者	8.6/12 (71.7)	0.4/12 (3.3)	2.9/12 (24.2)	0.1/12 (0.8)	10/12 (83.3)	0.7/12 (5.8)	1.3/12 (10.8)

(20) J: (沈黙 12 秒) おもいやり。(沈黙 7 秒) 事実。

I: この文を見て、どういうイメージをされました？

J: その「愛 (あい)」の方が感情的なもので、「真理 (しんり)」っていうのがその (間)

論理的な、理論的なもので、その(間)相反するものが、うまくいかない、みたいなイメージでした。

- I: あー、なるほど。(間)なるほど。(間)「口論する」は、言い換えると、どん……どんな言葉、というか……
- J: うーん(間)食い違う、とか。(間)両立できない、しない、とか。
- I: あー、なるほどね。えーと、例えばこの、「あい」と「まり」っていう、女性の名前だとは思わなかったですか？
- J: 確かに……や、その方が自然だと思います。「口論」ってなあって、「あい」と「しんり」で口論、と(間)不思議だなとは思いました、その時、なんか格言めいた感じだったので、その、対立することを口論に例えているみたいな…… (JJT0-15「愛、真理」)

4.3 固有名詞の解釈プロセスの特徴

本研究の分析から、固有名詞の解釈プロセスに「再解釈」というパターンも観察された。すなわち、当初は当該の語の意味を普通名詞と解釈したものの、それが文脈の理解と整合しなければ、そこまでの判断が放棄され、再解釈が行われ、そこで固有名詞の解釈が発見できれば推測は成功するが、発見できなければ推測は失敗となるというパターンである。具体的には、例えば、以下のような例がある。

(21) 再解釈して推測が成功した例

C: 啊，就是总理的特别报道每天都被，都被登在杂志上。

『あー、つまり総理の特別報道は毎日、雑誌に掲載されます。』

I: 嗯，你觉得这个是什么意思？

「うん、これはどんな意味だと思いますか。」

C: 就是每天。哎，不是，这是每，这是那个每日新闻吧。我感觉是登在这个杂志上。

『毎日という意味です。あー、違う、これって、あの毎日新聞でしょう。あの雑誌に載っていると思います。』

I: 呃，那为什么又觉得是每日新闻了呢？不是每天了呢？

「えー、じゃ、なんで毎日新聞だと思ようになりましたか。毎日のことではなくて？」

C: 就是动词前面那个に，它应该是连着一个杂志，就是被它每天就是登在每日新闻上。

『それは動詞の前に「に」があったから、これは何かの雑誌につながるはずですよ。つまり毎日、毎日新聞に載っていると。』 (CCH3-11「毎日」)

(22) 再解釈して推測が失敗した例

C: 国体，首先我想到运动员。

『国体、まず真っ先に思い付いたのはスポーツ選手です。』

I: 运动员，嗯，为什么会想到运动员？

「スポーツ選手、うん、どうしてそう思いますか。」

C: 因为我没见过国体这个词, 但是会把它想成两个词, 国家和体育。

『国体という単語を見たことがなかったから, でもこの単語を二つの単語から成っていると考えています。』

I: 啊, 好好好, 接着还有吗?

「あ, なるほど。他に何かありますか。」

C: できたことがある。应该不能说是他出国吧? 但是是的话, 应该是できたことがある。

『出たことがある。彼が出国したとは言えないでしょう。でも, 「でる」なら「できたことがある」はずですね。』

I: 嗯, 可以, 可以。

「はい, いいですよ。いいですよ。」

C: 可能不对, 因为感觉こくたいに, 觉得又不是我想的那个国家体育。或者可能是入选的意思吗?

『違うのかもしれませんが。「国体に」だと, 私が思った, あの「国家体育」と違う感じがしますから。あるいは, 「国体に出た」というのは選挙に出た, つまり入選したという意味ですか。』

I: 嗯, 入选? 反正我觉得你是在一直看这个にでた。

「うん, 入選したという意味ですか。いずれにしてもずっと「にでた」ばかりを見ている感じですね。」 (CCT0-04 「国体」)

こうした再解釈というプロセスが加わることで理解の精度が高まるため, 学習者を指導する際, 「当該の語の解釈と文脈との整合性」に気づかせることが重要であると思われる。

5. まとめと今後の課題

本研究では, 人名, 商品名, 会社名, 店名などの12の日本語の固有名詞において, 中国国内の大学で日本語を専攻する中国人学部生30名, 日本国内の大学で学ぶ中国人学部生と日本人学部生各10名を対象に調査を行った。また, 本研究では, 読み手の文章理解過程を可視化するため, 文章を読みながら口頭で母語に訳しつつ, 問題になっている語について質問に答えてもらう方法を用いた。質的分析の結果, 次のことが明らかになった。

まず, 中国人日本語学習者については, 以下のことが判明した。

- 1) 固有名詞の習得には滞日経験が影響していることが示唆された。
- 2) 滞日経験があると, 経験の手がかりなどの「内容の手がかり」の使用が活発になる傾向が見られた。
- 3) 滞日経験があると, 語の意味を知らなくても正しく推測できる推測能力が若干上がる傾向が見られた。また, 今回扱った12の固有名詞のうち, 語の意味を知らなくても推測できた率が最も高いのは「アシスト」, 続いて「国体」, 第3位が「二郎」である。その中で, 「ア

シスト」は、学習者と母語話者の差が顕著であった。なお、学習者の中では、推測能力が最も高い人（留学生 CCT0-10）が語そのもの、前後の要素、文全体の意味、調査時の雰囲気や周りの環境、インタビュアーなどの外部から得られる手がかりをバランスよく用いつつ、とくに日本の滞在経験を生かした経験の手がかりと常識の手がかりを活用して、12の固有名詞のうち、「小枝」「愛、真理」「国体」「アシスト」「アクセス」という5つの語義を正しく推測することができた。

一方、日本語母語話者については、以下のような特徴が見られた。

- 1) 日本語母語話者は、10名中6名が「アクセス」を知らず、かつ、推測もできなかった。また、「馬車道」については5名が同様であった。これに対して「アシスト」については、10名全員がこの語を知らなかったにもかかわらず、正しく推測できた。
- 2) 日本語母語話者は、固有名詞に関する知識は中国人日本語学習者より豊富であるが、その知識は特定の文脈で使われている限定的な意味の選別に負の働きをすることもあり、最終的に、意味推測に失敗した例も見受けられた。

最後に、学習者、母語話者を問わず、固有名詞の解釈プロセスの特徴として、言語心理学でいうガーデンパス文の解析に顕著な「再解釈」というパターンが観察された。すなわち、当初は当該の語の意味を普通名詞と解釈したものの、それが文脈の理解と整合しなければ、そこまでの判断が放棄され、再解釈が行われ、そこで固有名詞の解釈が発見できれば推測は成功し、発見できなければ失敗となるというパターンである。

上述の結果を踏まえ、日本語教育においては、固有名詞を解釈する際に学習者や母語話者が実際に用いている文脈の手がかりの種類別活用法を指導することは、読解における語義の類推や語彙習得にとって有効であると思われる。

今後の課題として、統計的検定に基づいた分析ができるように、調査対象者の人数を増やすことと、インタビューにおける調査者の質問の仕方による影響の潜在的可能性も考慮する等、より適切な調査・分析手法を用いて、日本語能力や滞日経験の違いによる中国人学習者の各グループの特徴を探求することを目指したい。

参考文献

- 藤井明子・花田敦子・藤原未雪・野田尚史（2012）「上級日本語学習者の読み誤り：学習者は学術論文をどこで読み誤るか」『2012年度日本語教育学会春季大会予稿集』151-156.
- 藤原未雪（2016）「中国語を母語とする上級日本語学習者が学術論文を読むときの困難点：名詞の意味の誤った理解を中心に」『日本語 / 日本語教育研究』7: 165-180. 東京：ココ出版.
- 石黒圭・烏日哲（2017）「文脈情報を用いた日本語学習者の文章理解過程の分析：中国語を母語とする日本語学習者を例に」国立国語研究所日本語教育研究領域合同研究発表会「日本語学習者のコミュニケーションの解明に向けて」（2017年2月4日、於：国立国語研究所）発表資料.
- 桑原陽子・山口美佳（2014）「中国語系初級日本語学習者がホテル検索サイトを読むときの困難点」『国立国語研究所論集』8: 109-127.
- 森雅子（2000）「母国語および外国語としての日本語テキストの読解：Think-aloud法による3つのケース・

- スタディー」『日本語教育論集 世界の日本語教育』10: 57–72.
- 中西泰洋 (2012) 「中国語を母語とする日本語学習者の読解教育を考える」『神戸大学留学生センター紀要』16: 37–47.
- 野田尚史 (2014) 「上級学習者が学術論文を読むときの方法と課題」『専門日本語教育研究』16(1): 9–14.
- 高橋亜紀子 (2012) 「上級中国人日本語学習者の読解の問題点：再話・筆記再生タスクの分析を通して」『宮城教育大学紀要』47: 357–371.
- 山方純子 (2008) 「日本語学習者のテキスト理解における未知語の意味推測：L2 知識と母語背景が及ぼす影響」『日本語教育』139: 42–51.

Understanding the Meanings of Proper Nouns by JSL and JFL Learners during Passage Comprehension Processing: Focusing on Contextual Clues

MENG Yun

Postdoctoral Research Fellow, JSL Research Division, Research Department, NINJAL

Abstract

In this study, we investigate understanding the meanings of proper nouns by JSL and JFL learners. We selected twelve proper nouns which cover personal names, trade names, company names, shop names, etc., each being a polyseme characterized by either having the meaning of both a proper noun and a common noun, or having meanings of two different proper nouns. Fifty significant responses were obtained from 10 native speakers of Japanese (NSJ), 10 JSL learners studying in Japan, and 30 JFL learners majoring in Japanese language in Chinese universities. To make the reading comprehension process observable, Chinese participants orally interpreted the Japanese sentences into Chinese and answered questions about the target vocabulary words in Chinese.

The results of qualitative analyses concerning Chinese learners of Japanese are as follows:

- i. Length of residence in Japan may have an effect on the acquisition of proper nouns,
- ii. Learners in Japan (JSL) more actively used *contents clues* such as *experiential clues* than their JFL counterparts,
- iii. Learners were able to guess the meaning of unknown proper nouns somewhat better if they had spent time in Japan.

The results for NSJs are as follows:

- i. Sixty percent and 50% respectively did not know and could not guess the meanings of the proper nouns *access* and *bashamichi*, while all NSJs were able to guess *assist* correctly.
- ii. The knowledge of NSJs with regard to proper nouns was better than that of JSLs and JFLs. However, NSJs' knowledge was sometimes a negative influence causing eventual guessing failure.

Finally, both Chinese learners and NSJs sometimes showed re-interpretation patterns characteristic of garden-path phenomena.

Key words: passage comprehension process, JSL and JFL learners, proper nouns, understanding meanings, contextual clues